

### 子育て中の親のネットワーク ロコミで広がった支援の輪

「震災で園児の家が全壊し、卒園式で募金をしたのがきっかけで、父母に支援の意識が芽生えたのだと思います。」

そう語るすみれ幼稚園の岡本園長。それ以後、さまざまな形で支援物資を集め被災地に贈る活動が続きました。

#### ●幼稚園関係の雑誌に載った小さな記事

仙台にある向山幼稚園を拠点に立ち上げられた「みやぎ・わらすこプロジェクト」が、津波ですべてが流された近隣の保育園のために絵本やお昼寝用の布団を緊急に集めているという小さな記事。

それを讀んだ事務長の声かけから始まった絵本と布団を集める動きは、在園生の親だけでなく保護者OBにもロコミで広がり、送迎バスで園児を迎えに行く親が布団を持って待っていて、布団で一杯になったバスが園に着いてびびくりなどというところもありました。

#### ●継続した支援の輪

その他にも、岩手県大槌町の高校に知り合っている文星高校の先生からの要請で、文具や辞書を送ったり、青年会議所からの協力要請に応えたりと、子育て中の親のネットワークがフルに活動しています。

#### ●具体的であることの大切さ

事務長の岡本佳史さんは、「手間のかかる仕分け作業など、一人の力は微々たるものですがそれを結集することで大きな力になりました。協力してくれた人たちは『何かしてあげたいが何をどうすればいいか』と悩んでいました。しかし、経験や知識がない中でやったので、本当にこれで良かったのかどうか心配でした。今後のためにも、後方支援だけでなく、具体的に何が助かったのか、何が問題だったのかを知るために本当は現地に行きたいし、行った方が良いと思います。必要な支援の形は変わっていくだろうし、まだまだ復旧の進んでいない地域がたくさんあるので、これからも情報収集に努めます」と話してくれました。



広い園舎を利用しての仕分け作業



きちんと仕分け

### 地域のつながりを生かして

被災した気仙沼市大島地区を中心に物資を届けている安沢「ほほえみ会」代表の渡辺瞳さんにお話を伺いました。

#### ●まず話し合うことから

震災の報道を見て、ほほえみ会として何か手伝いができないかと話し合いました。近所の知人から、NPO法人岸本ファミリー基金・事務局長の小野寺容(すずむ)さんが気仙沼市で支援物資が届かない地域があって困っているという話を聞き、できるだけ多くの日用品や衣類を届けようと思いました。

#### ●各方面から援助の手が

会員を始め安沢区民と近隣市町民120人の個人の方、団体からいろいろな物資のご寄付をいただきました。たくさんの方がサポーターになってくれて、今までに三回気仙沼市

に届けてきました。初回は、六月下旬に三トトラックを二人で。二度目は七月四〜五日一泊で車四台分を九人で。三度目は七月二十四日やはり一泊で三ト



被災地では長蛇の列が

一人でも多く泊まりに来てください」と言っていました。

#### ●今後の予定

九月下旬に小野寺さんと相談して一番必要な物資を届けたいと思っています。冬物の衣類・湯たんぽ等を考えていますが、ワンコイン五百円で湯たんぽ二つが買えます。公民館やきずな館などで募金を行う予定ですので協力をお願いします。

#### ●被災地を訪れて

避難所にいる方々の疲れ切った目を見て本当に大きな衝撃を受けました。一人でも多くの人が参加して助けてあげなくてはいけないと思いましたが、実行する勇氣を持ち、市民の方々には起爆剤になって欲しいと思います。

#### ●四〜五年前は体調が悪く歩くのも大変だったと聞いていますか？

最近ほととも元気がなりました。ボランティアを続けなければという思いが元気の源となりました。それに会員およびサポーターの協力や励ましがあって続けられました。今回も多くの皆様の暖かい気持ちをお届けされたことは会員の喜びです。



三トトラックいっぱいの荷物とメンバー

(K・H)